

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年1月30日

少友幼稚園 園長 吉野悦子

1. 本園の教育目標

キリスト教フレンド派の精神に基づいて教師と園児とその保護者との間の愛と信頼の中で「神と人に対する感謝の心を持つ」「進んで社会に奉仕する人」「自主的に判断し強い意志と責任感を有する人」「個人の持てる能力を十分に発揮できる人」「協調性のある豊かな人格を有する人」

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

新しい縦割り保育

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	縦割りクラス	A	りす・ひよこ組、うさぎ・ひつじ組と新しい縦割りクラスに分けることで時間にしばられない自由な保育を実践することができた。
2	おやじーじの会発足	A	保護者に声掛けをして園庭緑化計画を実現した。
3	SDGs	B	8/19(土)環境フェア 8/27(日)Kids SDGs Cup Mito2023 園庭にコンポストを作る、など園の取り組みを発表する機会を得た。

評価(A十分に成果があった B成果があった C少し成果があった D成果がなかった)

4. 総合的な評価結果.

評価	理由
A	新しい縦割りクラスに分けることで部屋の移動が少なくなった。そのことで、子どもたちは自分の好きな遊びに集中しゆっくりと過ごすことができた。園庭に関しては保護者が関わることで砂山など充実した遊び場が加わり、保護者同士のコミュニケーションも深まった。夏にはひつじ組(年長)の園児が「私のSDGs エコな取り組み」活動を発表した。

5. 今後取り組む課題

1	未就園児の支援	0.1 歳児クラスを開催し保護者支援にも努める。
2	預かり保育の充実	異年齢の関わりを大切に、長時間の保育を楽しく過ごせるよう個別にも丁寧にかかわる。
3	園の理念に基づいた保育	一人一人が神からの働きかけを感じる力が与えられている、というキリスト教フレンド派の考え方を職員も理解し、週に1度は全園児での礼拝会で祈りの体験を実践する。

6.学校関係者評価委員会の評価

差を考慮してクラス編成されたことで、時間の制限や場所の移動が少なくなり、子どもたちがのびのびとゆっくり過ごすことができたようです。

また園庭緑化計画を実現でき、以前から課題とされていた園庭計画も前に進ませることができています。今後も食育につながる菜園の充実を図り、子どもたちにとって恵みある思い出深い素敵な園庭になっていくことを期待します。

今後の課題として、未就園児の親子支援や預かり保育の充実、礼拝会の実践などが挙げられていて、ますます地域のニーズに応えていこうとする園の姿勢に感銘を受けました。

学校関係者評価委員 永田明子

令和5年度に取り組まれた目標・計画とその評価結果について園長からご報告を受けました。園児の健やかな生活の実現のために、先生方が日々ご尽力されている様子がよく伝わりました。

新しい縦割り教育により保育の時間にゆとりが生まれたこと、「おやじーじの会」の発足により園庭の緑化に

限らず、保護者のコミュニケーションを促したこと、素晴らしい成果だと思います。

また、自分たちが育てた野菜を喜んで食べていたという報告はとても印象的で、今後も大いに取り組んでいただきたいと

思い、その旨お伝えしました。

少子化、子育ての多様化、情報の過多などで保育の現場でも工夫やご苦労が絶えないだろうと思いますが、

常に園の教育目標と理念を見失うことなく、少友幼稚園が地域にとっても大切な「場」であって欲しいと願います。

学校関係者評価委員 川崎賢一